

Q 児童の安全のための危険箇所の補修対策は

A 教育委員会を中心に関連機関と連携して改善していく



松浦常雄議員

問 通学路の危険箇所の点検はどこが主体となっていて行っているのか。

次長 教育 平成24年度に警察署、県北建設事務所、町建設課、教育委員会、学校の5

者で緊急合同点検を行った。その後、毎年

学校が主体となつて4月に集団登校の指導、必要に応じて低・中・高学年ごとに2〜3人の教諭が巡回をして

いる。また、小学校のPTA育成委員会の方部長を中心にして各地区の点検を行っている。

問 古くなって見えにくい看板の更新や防火用水扉の不具合などの補修はどの部署で行うのか。

町青少年育成町民会議の各団体の協力で更新している。また、防火用水扉の補修については、住民生活課が行う。

問 通学路の危険箇所は以前50か所程度あったと聞いたが、平成24年度から3年間でどのくらい改善したか。

次長 教育 道路、通学路は、道路管理者に安全対策を講じるようお願いしている。町施設は改善済みで、県道五十沢国見線は継続して強く要望している。

町民会議の各団体の協力で更新している。また、防火用水扉の補修については、住民生活課が行う。



色あせて見えにくくなった看板

次長 町青少年育成町民会議の各団体の協力で更新している。また、防火用水扉の補修については、住民生活課が行う。

問 補修が十分でない箇所もあるが、今後どう進めていくのか。

教育長 児童生徒の安全を守ることは最優先に取り組むべき課題である。今後、教育委員会を中心に、関係機関と連携して進めていきたい。

防災設備を充実させ町民の意識の向上を

問 町の防災訓練の日が小学校の学習発表会と重なっている。もっと多くの人が参加できる日に設定すべきではないか。

課長 住民生活 今年度の実施日は町民の代表との合意により設定したものである。

問 各地区の防災倉庫には発電機が、備品の充実に対する考えは。

課長 住民生活 町内7か所には、発電機や水タンク、毛布などの整備を進めている。また、保存水やアルファ化米、乾パンといった保存用食料は、町民

問 町全体ではなく簡略化した地域ごとの防災マップも必要ではないか。

町長 年ごとに防災の状況は変わっており、今年度も防災マップの改訂を予定している。細部のものも網羅できないか検討しながら町民の安心安全にしつかり対応したい。

が1日3食摂ることができる備蓄量を目指し、年次計画により備蓄拡大を進めている。

問 道の駅も避難場所として想定しており、防災倉庫が必要ではないか。

課長 建設 緊急防災事業で、備蓄倉庫を設けることにしている。また、国土交通省でも、災害時における資機材の倉庫を別途設ける。

Q 若者交流・婚活事業について 町の対策は

A 「スマイル国見若人の会」の企画を 町で支援

問 人口減少・少子高齢化に歯止めをかけるためにも、若者交流や婚活の事業で手助けをしていかなければならないと考えるが、町としての対策は。

保健福祉課長

若者交流事業実行委

人口減少・少子高齢化に歯止めをかけるためにも、若者交流や婚活の事業で手助けをしていかなければならないと考えるが、町としての対策は。

問 昨年度実施の婚活イベントに年齢制限があったと聞いたが、年代にこだわらない幅広い交流が必要ではないか。

保健福祉課長

7月実施のバーベキューパーティーでは

年齢制限を設けず、女性については県外の参加者も交えて実施している。

新規就農者への支援は

問

新規就農者に夢と希望を持つてこれからの農業を



農業に興味をもつきっかけになるかも
(少年仲間づくり教室で稲刈り体験)

担ってもらわなければならないが、そのための農業開始支援資金などは有効に活用されているのか。

産業振興課長

町独自の事業として

の貸付総額は1290万円である。大震災以降の貸付決定者も現在、意欲を持って農業に取り組んでおり、制度の趣旨に沿った有効活用がなされていると考えている。

空き家を活用し 町を活性化しては

問

どこの地区でも年々空き家が

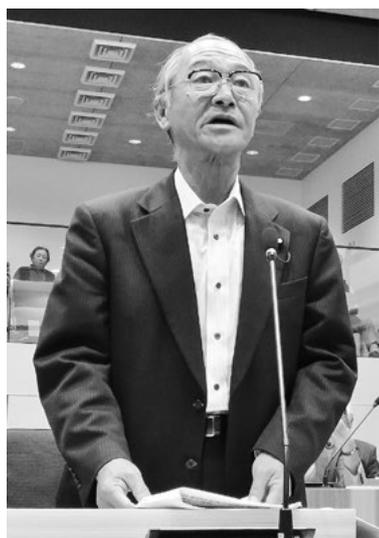
目立つようになり、空き家対策委員会も立ち上がった。今後空き家を有効活用していくことが町の活性化につながると思うが、町の考えは。

町長

昨年度、町全体の空き家の実態調査を行った結果、

公営住宅やアパートを除くと178戸が空き家となっている。「特定空家」の認定について法的な根拠付けがなされたことから、町も有識者会議を設置し、基本計画の策定や条例制定に向けて議論を始めたところ。今後、国見型の空き家対策について様々な検討を行ってきたい。

※特定空家とは
そのまま放置すると
倒壊など著しく保安上
危険のある空家。



村上 一議員